

歯の健康

8020で、いきいきライフ！
～何でもおいしく食べ、豊かな人生を過ごすために～



*8020（はちまるにいまる）・・・80歳になっても自分の歯を20本以上保ちましょう
20本は何でも噛むことができる歯の本数です。食事の際、不自由なく一生を過ごしたいです。

目標項目

- ・ 歯の健康について心がけている人の増加
- ・ むし歯のない乳歯を持っている児の増加
- ・ むし歯のない永久歯を持っている人の増加
- ・ 歯周疾患のない人の増加
- ・ 80歳で自分の歯を20本以上保っている人の増加

これまでの主な取り組み

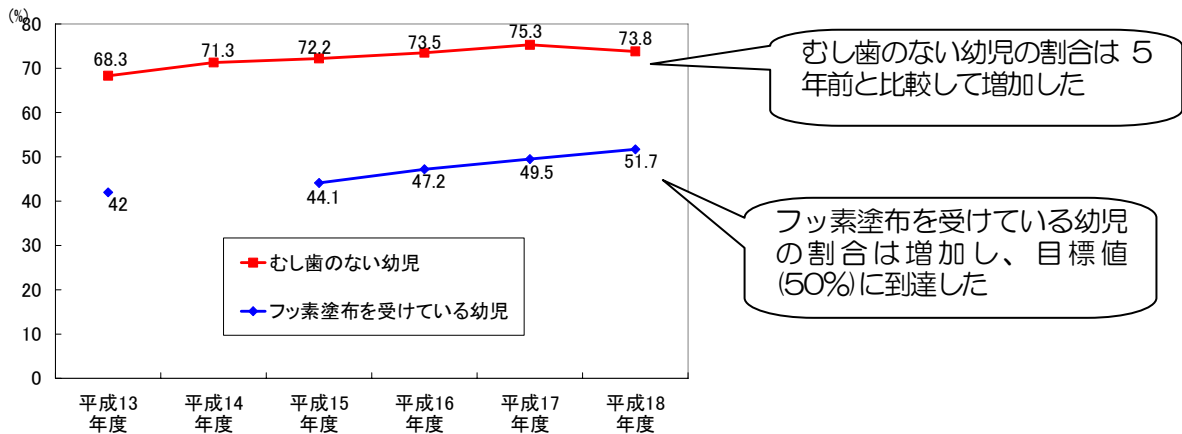
- ・ 定期的に歯科検診を受けることを勧め、歯周病予防に取り組んだ。
- ・ むし歯を持っている幼児の割合が高い地域では、重点的にむし歯予防に取り組んだ。
- ・ 歯磨き時のフッ素入り歯磨き剤使用やフッ素洗口などの効果的なむし歯予防方法をPRした。

主な目標項目の達成状況

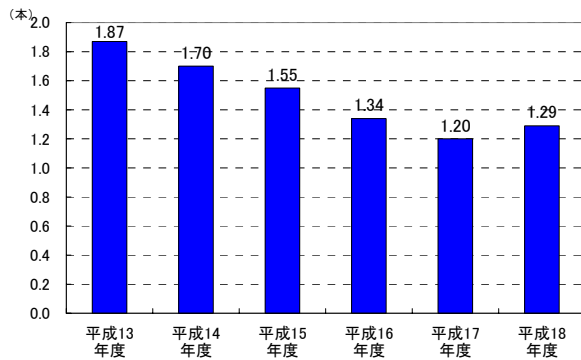
（達成度：◎目標値に達成 ○改善 △ほぼ変化なし ×悪化）

	策定時	現状値	目標値	達成度
年一回歯科検診を受けている人の割合※1	19%	26%	30%	○
むし歯のない幼児の割合（3歳児）※2	68%	74%	80%	○
12歳児の一人平均むし歯数※3	1.87本	1.29本	1本以下	○
フッ素洗口を実施している児童、生徒の割合※4	4小学校	9小学校 （3幼稚園）	40校以上	△
成人の進行した歯周炎の割合※5	48%	55%	減少	×

データ出典 ※1 市民アンケート調査 ※2 3歳児健診 ※3 学校保健概要 ※4 岡山市保健所把握 ※5 歯周疾患検診
（すべての指標、目標値、達成状況、データの出典の詳細はP.115から掲載しています）



むし歯のない幼児の割合・フッ素塗布を受けている幼児の割合
（岡山市3歳児健康診査）



12歳児の一人平均むし歯数 (岡山市学校保健概要)

現状と課題

- ・ 歯の健康に気をつけている人が増えた。
- ・ 子どものむし歯は少なくなった。
- ・ フッ素塗布を受けている幼児の割合は増加し、目標値に到達した。
- ・ フッ素洗口実施している小学校・幼稚園は増加したが、目標には到達できていない。
- ・ 成人の歯周炎の割合は高くなった。

今後の重点項目

- ・ 歯ぐきの健康に心がけている人を増やす。
- ・ 年齢に応じたフッ素の利用方法をPRし、乳歯や永久歯のむし歯予防を進める。

今後の取り組み

- ・ 地域ぐるみで歯の健康づくりに取り組む。
 - フッ素塗布の推進
 - おやつとの与え方
 - 歯科検診の受診勧奨
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、自分にあったむし歯・歯周病予防の方法を身につける。
 - フッ素の利用
 - 歯間ブラシの使用
- ・ 学校ぐるみでフッ素洗口に取り組むことを目指す。

こどものむし歯をなくすために ～フッ素洗口の取り組み～

フッ素洗口は、むし歯になりにくい強い歯をつくるために行います。永久歯のむし歯予防のためには、就学前から中学校卒業までの時期に実施すると、大変効果的です。園や学校で行うと継続しやすく、より高い効果が得られるため、岡山市では学校ぐるみのフッ素洗口に取り組んでいます。学童に見られる病気の中でも、むし歯は相変わらずファースト1です。「健康日本21」の中間評価においても「幼児期及び学齢期のう蝕予防については、特に地域差が見られる」と、むし歯の予防方法の普及における地域格差を指摘し、「フッ化物による洗口などを推進していくことが今後必要である。」と重点的に取り組むべき課題に掲げています。しかし、岡山県内では、岡山市においてしか、集団的なフッ素洗口を実施していません。実際に、都道府県別に比較しても、岡山県内の実施施設数は少ない状況です。

すべての子どもたちに、むし歯を予防する機会を平等に設け、健康格差を生まない環境づくりが必要です。